

たけのご幼稚園とラジオのおっちゃん(8)

しょうごもり
庄籠

道子

セクハラ事件の巻

九月になった。朝晩は涼しくなったので、お母さんが分厚い服を出してくれた。それを着て幼稚園に行くけど、昼間はまだまだ暑い。走り回るとますます暑い。

園庭を走り回ったみんなは、

「あついでよー」

と部屋に入る。

「わー、汗びっしょり。きがえがある人はきがえなさい。ない人は、上の服を脱ぎましょう」

先生の言葉に、みんな服を脱ぐ。

「先生、脱いだら、下着のシャツや」

「ええがな。しばらくシャツで涼んどき」

「はーい」

しばらくした時だった。あいこがかずをドン！と押しした。見ていた竹田園長先生が

「あいちゃん、ちょっと、おいで。今、かずくんを押したね。どないしたん？」

あいこは黙ってうつむいている。顔がとても怒っている。

「どうしたん？ あいちゃんは、わけもなく、お友達を押ししたりする子やないわ。なにかあったん違う？ 言うてみ」

籠先生もやってきて言う。しかし、あいこは黙って口をへの字にしている。

「あかんやんか。お友達を押ししたりしたら。あぶないや



んね」

あいこは、黙ってうなづく。だけど、何か変だ。

ふたりの先生に見つめられて、あいこは、意を決したように言った。

「あのね、かずくんがね、ここに手を入れた」

あいこは自分の下着のシャツの胸を指した。

「ん、まあー！」

「かずくん、こっち、きなさい！！」

ふたりの先生が同時に叫んだ。ふたりとも顔が真っ赤になつてふるえている。

かずは、しょんぼりうなだれて、ふたりの前に立った。

いっしょに遊んでいた三人組は顔を見合わせた。ばかだな。かずのやつ。籠先生ひとり怒らせてもおそろしいのに、ふたりも怒らせちまつたぜ。おおこわー。

かずはふたりの先生から、こつてりしほられた。あいこに何度も何度も何度もあやまらなければならなかった。

開会式の練習の巻

運動会の練習が始まった。たけのこ幼稚園は子どもが十八人しかない。十八人だけで運動会をしてもつまらないから、たけのこ小学校の運動会に参加させてもらう。今年も、かけっこ、親子での演技と、「だんご三兄弟」に出ることになった。そうそう、入場行進にも出るんだ。開会式もラジオ体操もいっしょにさせてもらえるんだ。

きょうは、小学校で入場行進の練習がある。幼稚園もいっしょに練習だ。

たつやのおにいちゃんがいる。もみのおねえちゃんが手をふっている。二十分休みによく幼稚園に遊びに来てくれるゆかりねえちゃんもいる。うれしいな。幼稚園の子どもは大興奮。

六年生・五年生……と順番に入場門から入っていく。

幼稚園は一年生のあとだ。背の小さい順に並ぶ。きみなりとなみかが先頭だ。運動場を一周する。一番小さなきみなりの手をぐいぐい引っ張って先生が歩く。じゃないと、一年生との距離がどんどんあいてしまう。開会式の時、幼稚園は六年生の隣だ。六年生は大きいなあ。

正面には朝礼台。全校児童と幼稚園がずらつと並んでいる。朝礼台の横では、司会の森先生がマイクを持っている。校長先生をはじめ全部の先生方が、前に並んだり、児童の間を歩いて注意をしたりしている。

「優勝旗返還。……児童代表、さっと前に出なさい！
きびきび走って！」

司会の森先生が六年生をしっかりとつける。しーんと緊張感がただよ。

そんな時にも、ラジオのおっちゃんはやってくるのだ。ラジオ体操の音楽を響かせながら。

おっちゃんはラジオを左耳にあて、ラジオ体操の曲にあわせて右手をふったり、からだをキュッキュツと左右に向けたりしていた。みんな見てないふりをしながら、おっちゃんに目がくぎづけだ。おっちゃんは、ラジオ体操が終わるとラジオを消した。

「おはよう」

校長先生の前を通りかかったおっちゃんが校長先生にあいさつする。

「おはよう」

校長先生はまじめな顔で答える。おっちゃんは、朝礼台の前をとことこ歩いていき、司会の森先生にあいさつする。

「おはよう」

森先生はマイクを持ったまま

「おはよう」

と言う。

おっちゃんは、森先生をまじまじと見て

「なにしょん？」

と、聞いた。

「う……」

森先生が返答に困った。全校生徒が注目している。

「練習！」

森先生はあわてて一言手短に答え

「次、地区対抗リレーの優勝旗返還！」

と、開会式の練習を続けた。

しばらくしたら、隣の六年生がこっそり小声で隣の子に言っている。

「おい、みてみ。おっちゃんが走るで。走るで！」

おっちゃんがかか叫んでいる。

「加藤先生、そこ、どいて！」

保健室の先生が加藤先生に注意を送った。加藤先生はあわててどいた。

おっちゃんがむこうで よーいどん！ の構えをし

た。えっ？ 今から走るん？ 全校児童と朝礼台の間を？

あ、走った。全校児童がしーんと緊張して並んでいる前を。一直線に。全速力で。

右から左にかけぬけたおっちゃんは、疲れたらしくよろよろしながら、朝礼台に歩いていった。いつのまに置いたのか朝礼台のすみのラジオを取って、そのままよろ

「じゅんぐんぐん」の巻

いよいよ、運動会当日だ。校庭に万国旗がはためいている。入場門にも退場門にもちり紙の花がさがられている。各地区のテントが所せましと立てられている。青空の広がった絶好の運動会日よりだ。みんな緊張しながらはりきっている。

入場行進も開会式も無事にすんだ。ラジオのおっちゃんは、客席や準備物の置いてあるテントをうろうろしている。誰かにもらうらしく、時々たばこをすっている。

よろしながらどこかへ去っていった。

三人組は誰か笑うかなと思つた。でも、小学生も先生達も誰も笑わなかつた。誰も何も言わなかつた。あいかわらず、しーんとしていた。そして、何事もなかつたかのように、開会式の練習は続けられた。

「おっちゃん、灰皿はここやで」

小学校の先生がおっちゃんの前に灰皿をさしだしている。

さあ、僕たち幼稚園のかけっこだ。

四人ずつ走る。マイクを持った籠先生がついている。今から走る四人の子どもたちの口元に順番にマイクをむける。ひとりひとり名前を言うのだ。

「やまぐちきみなりです」

拍手が起こった。もはやスターである。

「うめだなみかです」

またまた拍手。ひとり言うたびに拍手。次はじゅんの番だ。籠先生がマイクをむけた。

「おのだじゅんくんです」

どっと笑いがおこった。そういえば、じゅんの家に電話すると「はい、おのださんちです」ってじゅんが出る。

じゅんには負けるぜ。

かけっこも無事に終わった。「だんご三兄弟」もかわいかったよと評判だった。小学生も走ったり踊ったり好評だった。午前の部が終わった。幼稚園の子どもは、これで解散。帰ってもよし、おうちの人と応援してもよし。さあ、みんなお昼ご飯だ。地区ごとのテントの下で。

みんなにぎやかにお弁当をひろげる。アイスクリーム屋さんも来ている。あ、じゅんのやつ、もうアイスクリーム買ってる。運動場のトラックには、もう誰もいない。む

こう側に用事があっても、目立つから誰もトラックは通らない。遠回りでもテントの外を回る。まわりはにぎやかだけど、トラックでは万国旗だけがはためいている。本部席から、静かなバックグラウンドミュージックが流れている。

その時だった。

ラジオのおっちゃんがトラックの中にひとり登場した。スタートラインで、たったひとり走る構えをした。

おっちゃんはトラックをみすえた。

「やつ！」

おっちゃんはひとり、かけ声をかけて、気合を入れて走りだした。万国旗のはためく中を、何百人もの観客（たいていの人はお弁当を食べていて気がついてないけど）の中を全速力で走る。たったひとりで。じゃまするものはなにもない。おっちゃんの晴れ舞台だ。

たけのこ村の人たちはもちろん誰もおどろかない。毎年恒例のことだから。

（保育研究グループ はるにれ）